



# かみせや

横浜市立上瀬谷小学校 学校だより

令和6年5月30日

地域版

6月号



感じる心たいせつに みんなの心、みとめあい せいっぱい やってみよう やりとげよう

## 育ち合う子どもたちの関係を生かして

副校長 柴田 耕治

新年度が始まり、進級または入学して二か月が過ぎました。この間に、「きらぼか班」という縦割り活動も始まりましたが、それだけでなく様々な形での異年齢集団のかかわりを通して、子どもたちの育つ姿が見られます。

先日は、1・2年合同で体力テストを実施しました。6年生2名が、1年生・2年生の3～4名を引率して、校庭と体育館に分かれた各種目を案内し、計測の補助を行います。1年生にとって初めての体力テストも、優しく手を引いて一緒に回ってくれる6年生のお兄さん、お姉さんがいてくれて安心です。「はい、ここに並んで順番を待ちます。」よく分かっている6年生が全部教えてくれます。「はい、どうぞ。」1年生に目線を合わせながら優しくボールを手渡している6年生の姿も見かけました。「がんばってね。」そんな気持ちも伝えているのでしょう。また、自分の競技が終わった1年生のことを6年生は上手に甘えさせてあげています。6年生のどこまでも優しく温かく、ときに粘り強いかわり。うっとりします。うんと年上のお兄さんお姉さんに見えることがあります。

振り返ると4月当初、1年生とのかかわりが始まった頃には、「朝の仕度をどこまで手伝っていいか、分からない。」「目を離すと1年生がどこかへ行ってしまう。」「話しかけても、答えてもらえない。」など、悩み事を仲間と共有していました。それからは試行錯誤の連続で、がまんもたくさんあったことと思います。

また、優しさだけではなく「だめなものはだめ」と、学校や社会のルールを教えようとしている場面も見られます。「どう伝えたら、分かってもらえるかな。」そうやって葛藤しながらも相手に応じて言葉を選び、目線を合わせて話す姿から、6年生の成長が伝わってきます。下学年の子どもたちの中には、その姿に気付いている子がいるようです。

今年度から4・5年生は合同で愛川宿泊体験学習を行います。5年生は昨年一度、愛川ふれあいの村での共同生活を経験しています。愛川の自然のよさも感じて知っています。例年行ってきた事前説明会は、5年生児童が主体となり、保護者と4年生に期待と安心をもってもらえるよう、内容・表現を工夫し準備をして臨みました。

家庭科の学習が始まった5年生は、フェルトの布を用いて宿泊体験学習のときに身に付ける「ネームプレート」を制作しています。さらに5年生は、バディの4年生の分も作り、お揃いのものを身に付けようとしているのです。「喜んでくれたら嬉しいな。」などと、相手を思って顔を思い浮かべながら、初めての裁縫の実習に挑戦しているのです。

「あなたがいるから頑張れる。」そんな関係が、ここにもあります。

また、学区の中屋敷保育園とは年に数回、5歳児（年長 ひまわり組）と1年生や5年生が交流活動を行ってきました。今年度からは、これまで以上に交流対象や機会を広げ、共に子どもの育ちに対する願いを語り合いながら連携を深めていきたいと考えています。

今後も、学校だより等で発信してまいります。お子さんやお近くの子どもたちからもお話を聞いてあげてください。